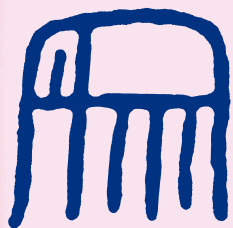


同窓會報



〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町 13-6
京都市立芸術大学美術学部同窓会 象の会
発行人：同窓会会長 望月 重延
TEL/FAX 075-334-2218
携帯 /090-7353-6999
http://www.kyogei-ob.jp
E-mail info@kyogei-ob.jp



大学作品展 2022.2.9 ~ 13 京都市立芸術大学、京都市京セラ美術館
コロナの状況により突然変更されることもありますので大学 HP でご確認ください。

大学名称問題和解／両同窓会の声明

2019年夏、私たち京都市立芸術大学(京都芸大)＜以下本学という＞の美術・音楽学部両同窓会は、瓜生山学園旧京都造形芸術大学が「京都芸術大学」へ名称変更する予定と聞き、共に創造的芸術活動を教育の要とする大学において、「あり得ない」との思いを抱きましたが、その本気度を知るに及んでこれに強く反対し、本学を支持し応援することを表明いたしました。本学は名称使用差し止めを求めて大阪地裁へ提訴しましたが一審は本学の主張を退けました。本学はこの判決を不服として同9月に控訴しましたが、大阪高裁の勧告もあり2021年7月20日に当事者相方は和解に至りました。

和解内容は、本学は瓜生山学園に対して「京都芸術大学」を使用することに異議を述べないこととし、瓜生山学園京都芸術大学は本学に対して「京都芸大」及び「京芸」を使用することに異議を述べないというものでした。

両同窓会は、反対署名や裁判支援カンパの呼びかけなど反対の活動を行ってきましたが、それは当事者として同じ思いで訴訟の先頭に立つ本学(理事長)を支援し応援する立場からの活動でありました。

この度の和解について、同窓生からは「和解と言っても実質敗訴であり、認めることはできない」「瓜生山学園に法的瑕疵が無いとすれば、和解できたのは評価すべき」「裁判に馴染む問題で無く、大学の価値は名称で決まるわけではない」という意見や「大学名称を商標登録する努力を怠ってきた当然の結果だ」という忸怩たる思いも聞こえてきました。

両同窓会は、このように様々な意見や思いがあることを承知した上で、当事者である大学が決断した和解であることを尊重したいと思っております。そして当事者が和解した調査の内容を私たちも遵守してまいります。

さらに、本学の略称「京都芸大」、「京芸」などの名称(商標登録済)を大切に守り、市民により分かりやすくするため、本学名と略称を一体的に表記＜京都市立芸術大学(京都芸大)＞する取り組みや、本学以外の大学の略称に「京都芸大」「京芸」が使用されている事例があれば個々にお知らせし、表記の変更をお願いしていく本学の取り組みに賛同し協力してまいります。

また、両同窓会は、来年(2023年)の京都駅東地区へのキャンパス移転を大きな転機として捉え、本学が名実ともに日本を代表する総合的な芸術大学として多くの方々に評価いただけるよう、より一層の支援を続けてまいります。

同窓生各位におかれましては、今後とも引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2022年1月21日

京都市立芸術大学(京都芸大) 美術学部同窓会象の会

会長 望月重延

音楽学部同窓会真声会

会長 登 博美

Head line

大学名称問題和解／両同窓会の声明	1	退任あいさつ	8
略称「京都芸大」の定着を図るために	2	Relay Talk 象の会・いろあわせ ⑭	9
「京都芸大」移転整備進行中	2	学内消息(資料)	10
芸大祭報告	3	会員展覧会	10
「京都芸大同窓会アートオークション2023」開催(案)	4	事務局だより	12
研究室だより／芸術資源研究センター	5	編集後記	12
新任あいさつ	8		

略称「京都芸大」の定着を図るために

象の会の皆様には、日頃から大学運営に多大な御協力を賜りまして誠にありがとうございます。

名称に関する訴訟につきましては、前号（73号）で御報告させていただきましたとおり令和3年7月20日に和解いたしました。その後、訴訟により止まっていた「京都芸大」の商標の審査が開始され、10月、無事に商標を登録するに至りました。商標登録「京都芸大」の取得につきましては、本学HPでもお知らせしておりますので、登録内容の詳細につきましてはHPをご覧ください。

また、本学では、本学の略称、特に「京都芸大」についてより一層の社会への定着を図り、また、本学と瓜生山学園京都芸術大学との誤解を防ぐため、当面の間、本学が情報発信する際は、双方の大学の表記を「京都市立芸術大学（京都芸大）」「瓜生山学園京都芸術大学」とすることといたしました。象の会の皆様におかれましても、御自身の活動を発信される際に、表記について御協力いただけますとありがたく存じます。

さらに、本学以外の大学を指して「京都芸大」「京芸」を使用されている事例につきましては、名称や略称に係る混乱を避けるため、和解事項の内容や「京都芸大」「京芸」の商標は本学が取得していることを御案内し、表記の変更をお願い

しております。そのような事例がございましたら、大学事務局（kyogei_machigai@kcua.ac.jp）まで根拠資料とともに御一報ください。

本学といたしましては、これまで以上に多くの方に京都芸大の活動を知っていただき、それと伴に「京都芸大」は本学の略称である旨の周知を図ってまいりたいと思っております。引き続き、皆様の御協力をどうぞよろしくお願いいたします。

（事務局総務広報課）



「京都芸大」移転整備進行中

令和3（2021）年5月に始まった京都市立芸術大学の移転整備工事は、鴨川に近いA地区、高瀬川沿いのB地区、そして京都駅に近いC地区の各地区において、建設工事が進んでいます。特に高倉通と河原町通、塩小路通に囲まれたC地区では、すでに工事現場の外からも地上6階部分まで立ち上がった鉄骨の姿が確認できるようになり、新キャンパスが現実味を帯びつつあることを実感することができます。

また、学内においても、移転後のC地区において整備される「音楽ホール兼講堂」について、現在の音楽学部の前身である京都市立音楽短期大学の初代学長を務められた堀場信吉氏の功績を称え「堀場信吉記念ホール」と命名することを、昨年12月に発表するなど、約1年半後に迫った新キャンパスへの移転に向け、着々と準備を進めています。

さて、制作機器や楽器の購入・更新などの教育研究環境の充実に必要となる費用を募る「移転整備募金」の取組みも活動開始から1年が経過しました。この間、同窓生の皆様からは格別のご

支援を賜っており、いただいたご寄付は9,000千円にも達しております（令和3年12月末現在）。中にはすでに複数回の寄付を行っていただく方もお見えになるなど、同窓生の皆様の温かいご支援に対しまして、改めて感謝申し上げます。

しかしながら、設置団体である京都市の財政状況も非常に厳しく、新キャンパスに相応しい、理想的な教育研究環境の実現のためには、なお多額の大学の自己資金が必要となることから、本学といたしましては、赤松理事長を先頭により一層精力的に募金活動に取り組んでまいる所存です。象の会の皆様には、これまでも多大なご支援を賜っているところですが、京都芸大の移転整備に対しまして、より一層のご支援、ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

（移転準備室）



A地区北向き



A地区南向き



C 地区最上階から南を望む



C 地区



C 地区最上階から京都タワーを望む



芸大祭報告

2度目のオンライン開催となった令和3年度の芸大祭が無事終了しました。総アクセス数は4万を超え、様々な垣根を超えて多くの方の目に芸大生の「今」を伝える場になったかと思います。

バーチャル空間での展示や他校との交流企画といった様々な分野で企画を遂行することとなり、多方面の方にご協力いただく芸大祭となりました。実地開催での魅力、オンライン開催の魅力、どちらも様々ではありますが代替案にならないオンライン開催を考えることは、新しくなっていくであろう社会と向き合うことそのものでした。

本質が失われた伝統は少なくないと思いますが、空虚さと努力と熱意で出来上がった多くの偶像達がいかに尊いことであつたのか、コロナ禍になり問われる機会が増えたように感じ

ます。芸大祭も例外ではありません。移転を控えている今、芸大祭はどういう形になっていくのか、学生が得られるはずの自由と自治の権利、公金で学んでいるという学生生活、はたまた変わりゆく世界に芸術は何が求められているのか。与えられるものや背負っているものに視界が奪われがちですが、自分の足元を見てみるとまるで混沌としていることばかりです。

そんな状況で今年度芸大祭を開催するにあたり、共に走ってくれる人の存在、応援してくれる人の存在、見てくれている人の存在、多くの人のお力添え、素敵言葉、一つ一つに混沌を再構成する糸口が眠っていました。何気ない旅のきっかけひとつで世界が少し変わるような、そんな機会のひとつになったのではないのでしょうか。

ご支援賜りました皆様をはじめ、先生や事務の方を初めとした大学の方、芸大祭実行委員を初めとした作り手、楽しんでくださった受け手、今年度芸大祭に関わって下さった全ての皆様に心から御礼申し上げます。

どうか芸大祭がこれまで以上に学生の飛躍のきっかけになることを願って。

芸大祭実行委員長 藤田梨央（美術科2回生）



2022年(令和4年)同窓会象の会「役員総会」開催予定

2022年度の役員総会を次の日程で開催(予定)いたします。同窓会役員幹事の方々には、6月にご案内の連絡をお届けしますのでご予定をお願いします。

*新型コロナ感染拡大などによって変更する場合があります。

2022年(令和4年)7月9日(土)午後3時～ 「からすま京都ホテル」(烏丸四条下る)

2023年：京都芸大は移転いたします

京都芸大移転整備支援のための

コロナ感染拡大や大規模災害発生等で
中止・延期・変更することがあります。

「京都芸大同窓会アートオークション2023」 開催（案）

ごあいさつ

京都市立芸術大学（京都芸大）では、2023年（令和5年）に京都駅東側エリアにキャンパス移転するための建設工事が現在進められています。大学が自らの強い意志を持って未来に進んでいく様子を、同窓会象の会としてもできる限りの支援をしたいと感じております。そこで、来るべき時代の新しい芸術大学を作り上げようとする、私たちの母校に協力する一つの形として「京都芸大同窓会アートオークション2023」を開催いたします。

呼びかけに応じ、出品・寄贈いただいた同窓生の作品をオークションにかけ、得られた収益金を移転整備支援基金（設備・備品等充実）として大学へ寄付するもので、同趣旨で開催した2016年に続く2回目のオークションとなります。

大学でも移転整備支援基金への募金活動も進められておりますが、まだ必要な額に達していません。私たち同窓会は「アートオークション2023」を成功させて母校の発展/美術教育振興の一助になればと祈念する次第です。同窓生を始め多くの方々のご支援とご協力を切にお願い申し上げます。

2022年（令和4年）1月31日

京都芸大同窓会アートオークション2023実行委員会
委員長 望月重延

主催：京都芸大同窓会アートオークション2023実行委員会

会期：2023年（令和5年）1月6日（金）～1月9日（月・祝）

1月5日（木）プレス発表 13：00～＜共に展示会場にて＞

内見会／14：00～19：00

オープニングレセプション（未定）

会場：京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA（堀川御池
ギャラリー全館）

＜〒604-0052 京都市中京区押油小路町238-1＞

☎075-253-1509

●募集作品

- ・同窓会会員（母校に在籍した方、現学部生、現大学院生、教員、元学長・教員など）が制作した作品。同窓生のご遺族からの出品も歓迎します。
- ・作品のジャンル、素材は問いませんが、平面では10号サイズ（作品サイズ）以内とし、立体では縦横高さの合計が概ね150cm以内で重量が10kgまで（一人が手に持って移動可能な重量）とします。
- ・出品者一人2点までとします。

●エントリー（事前申込）

- ・エントリー情報は、事前に配布するオークション広報資料（フライヤーなど）に出品予定作家名を記載するため使用します。
- ・エントリーの期間は、2022年（令和4年）9月1日（木）～10月31日（月）です。
- ・エントリー用紙に必要事項を記入し、郵送、FAX、webなどで同窓会事務局へ送付してください。
- ・エントリー用紙は、次号会報（8月下旬）で同送します。
- ・会場の展示スペース（300点ほど）を超えるエントリーになれば、途中でも募集を締め切ることがあります。



前回（2016年）のアートフェア会場（一部）

- ・会員のご遺族で主旨に賛同いただける方は、遺作等の出品（エントリー）にご協力いただきますようお願い申し上げます。

●作品搬入

- ・搬入期間 2022年（令和4年）12月14日（水）～18日（日）の11：00～17：00まで
- ・搬入場所 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
＜〒604-0052 京都市中京区押油小路町238-1＞☎075-253-1509

●展示

- ・作品には、「タイトル」「作家名」などを表示します。
- ・期間中は、オークション入札状況がわかる表示をします。
- ・できるだけ多くの作品を展示するため、展示方法は主催者に一任いただきます。

●オークション

- ・オークションは入札方式で行い、会場内およびweb（ネット）から入札できます。
- ・入札最低価格は、1点1万円以上とします。
- ・同価格で複数入札された場合は、先に入札された方を有効とします。
- ・入札額は、展示されている現姿の価格です。（額装などを含む）
- ・入札者は、入札をキャンセルすることはできません。
- ・オークションの受付期間は、前日の内見会会場と会期初日から最終日の19：00までとします。（webによる入札は会期初日から最終日まで）
- ・音楽学部同窓会真声会の出品については別に定めます。

●問い合わせ先

京都芸大同窓会アートオークション2023実行委員会事務局
〒610-1197 京都市西京区大枝杵掛町13-16
京都芸大内

電話・FAX：075-334-2218

携帯：090-7353-6999

Email：office@kyogei-ob.jp

芸術資源研究センター

芸術資源研究センター
所長 森野 彰人

芸資研の誕生

「2010年3月4日、[差出人] 石原友明、[宛先] 井上明彦、辰己明久、松井紫郎、小池一範、森野彰人、件名「アーカイバルリサーチ試案」

“今日の合同ワーキンググループ会議ですこし話題になった「アーカイバルリサーチセンター(芸術資源研究センター)」について前に鶴田先生と辰巳先生にお見せした、元々の試案を添付いたします。”

今から10年前、京都芸大法人化ワーキングメンバーでのメールです。今回の原稿依頼を受け、「芸術資源研究センター」(芸資研)に関するメールを遡り見つけ出せたのがこのメールでした。芸資研のお話をするには、その設立への道程を書くことが良いと思い、少しその経緯を振り返ってみたいと思います。この「アーカイバルリサーチセンター」試案とは将来構想委員長だった石原友明先生の組織再編構想で出て来た構想が出発点で、2009年の施設設備部会ワーキングのために書かれた試案でした。しかし、当初、組織再編だった構想がワーキングメンバーの中で成長し、これまでにない芸術創造教育・研究に新たな新基軸を構築する事になります。その予感とは2011年1月に学長に就任された建畠哲先生が、本学学長に興味をしめされたのはこの「アーカイバルリサーチセンター」構想があったからだと記憶しています。

「アーカイバルリサーチセンター」構想は京都という文化資源を富に有した都市にある、日本最古の小規模公立芸術大学が独自の存在感を示す方策として「クリエイション(芸術文化の創造と発信)／アーカイブ(文化の歴史的継承)」の二つの教育研究の目的を明確に示しつつ、芸術創造と芸術の歴史研究、資料保存をよりダイレクトに結びつけます。また、美術・音楽・伝統芸能など様々な学術領域、異なる領域において高度な専門性と柔軟な横断性を持たせる事です。本学、美術学部、音楽学部、日本伝統音楽研究センター、図書館、芸術資料館という独立した機関を横断的につなぎ再編する新しい研究基盤(プラットフォーム)の形成です。建畠哲学長は準備委員会の場でよく「現代の『梁山泊』のように人が集まり熱い議論がなされる場所していきたい」とおっしゃっていたことを思い出します。

芸術に関する資料を創造にダイレクトに結びつけるだけでなく、カリキュラムを改変して対応する事も可能だったでしょう。しかし、異なる領域の持つ高度な専門性に柔軟な横断性を持たせ、芸術創造に結びつける為にはこれまでにない新基軸を構築する組織が必要でした。そのキーワードが「創造のためのアーカイブ」であり、「横断的研究基盤」[梁

山泊]である「ARC(Archival Research Center)」でした。建畠哲学長が就任され学長の私的研究会として「アーカイバルリサーチ研究会」が発足しました。この研究会は、その後「アーカイバルリサーチセンター準備委員会」となり本格的に設置を目指してスタートしました。この構想は法人化に伴う京都市立芸術大学 整備・改革基本計画案(仮称)の第3章「大学改革の取り組み」と2012~2017年度中期計画の「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」の中で「社会・市民への教育研究の成果の還元に関する目標を達成するための措置」において「京都芸大アーカイバルリサーチセンター(仮称)」の設置を目指す」と記される事になりました。こうして書くと、順調に進展してきたように見えますが、メールを読み返してみると、「どのように説明すれば、このセンターの役割や意味を理解してもらえるのか?」「いつ教



2012_シンポジウム 創造のためのアーカイブpart1「未完の歴史」



2012_シンポジウム 創造のためのアーカイブpart2「物質と記憶」

授会で報告するのか?」「2012年10月7日に行われたシンポジウム「未完の歴史」のフライヤー裏面文章に設立を目指すことを記すのか、記さないのか」など、委員の思いや苦労が多くあった事を思い出しました。

この「京都芸大アーカイバルリサーチセンター(仮称)」の名称は設置にあたり京都市から漢字を用いた機関名にするように言われ、「芸術資源研究センター」と現在の名称になりました。「芸術資源」は英語に訳すると「Art Resources」です。「Archival Research」は素直に訳すると「保管資料の調査」「文献調査」となり現在の活動とズレています。しかし、この「芸術資源」には「創造のためのアーカイブ」を言い

換えた表現だとも言えます。ここで言う「芸術資源」とは一般的な図書館や美術館が収集した、著名な作家、演奏家の記録資料や二次資料だけではなく、この大学で日々繰り返される教員、学生、職員の活動を含むかなり幅広い様々なものを創造の資源として捉える考えです。

芸資研の活動は京都市立芸術大学「創造のためのアーカイブズ」研究会が主催となり行なった「未完の歴史」を皮切りにした連続シンポジウムが事実上のキックオフとなりました。その後ARC (Archival Research Center) 準備委員会が主催者として私が行なった「富本憲吉のことば」とその設立以前に3つのシンポジウムを実施しました。そして京都市立芸術大学芸術資源研究センター開設記念シンポジウム



2013_「富本憲吉の言葉」

に繋がっていきます。設立前から積極的にシンポジウムを開催してきたのは「芸資研」が他学のアトリサーチセンターやアートセンター、芸術資料館など、既存の組織とは違い「創造のためのアーカイブ」を核とした研究機関であることを、学内のみならず、学外へ周知する事と同時に、設立に関わったメンバーのそれぞれ「ARC」への解釈があり、それを確認する目的でもあったと思います。このようにして2014年正式に「芸術資源研究センター」として、本学で2つ目の研究機関として設立しました。現在、活動している中で、一つ心残りなのは、芸術資源研究センター概念図にある「メディアサポートセンター」の実現が未だ完了しておらず、「芸術資源」をアーカイブする新たな手法研究があまり進んでいないことです。このことを解消すべく、今年度からこれまでの1名の非常勤研究員予算を分割して情報技術系の人材を採用し、遅ればせながら新たなアーカイブにおける情報技術研究に足を踏み出しました。

研究活動は「オーラル・ヒストリー」「記譜プロジェクト」「富本憲吉アーカイブ・辻本勇コレクション」「総合基礎実技アーカイブ」の4件のプロジェクトから出発し、現在では活動休止のものを含む34件の研究プロジェクトを抱えるまでになりました。また、2019年からは研究紀要「COMPOST」を発刊し研究活動はますますの充実を見せています。それぞれのプロジェクトの詳細は本学芸資研のHP <https://www.kcua.ac.jp/arc/>をご覧くださいと思います。

芸資研の創造

芸資研の研究活動において重要なキーワードとなる「創造」についてです。「COMPOST」Vol2の巻頭言にて私が書いたもので、私見ですが、「創造的」とは通常では漏れ落ちる「身体性」を有した「記憶」の状態を保ちつつ、「記録」(アーカイブ)に変換し後世の芸術創造に有用な資源として蓄積する事にあると考えます。アーカイブを「身体性」を有した「記憶」の状態で捉え蓄積している機関は他にはありません。記憶とは人の中にあるものです。人が介することによって作品が成立するもの、メディアアート(音楽の演奏を含む)やパフォーマンスアート(身体をもちいた表現)の作品は多く存在します。これらの作品はアーカイブすることが難し



2017_文化庁メディアアーカイブ推進事業「ダムタイプ(pH)」のシミュレーター制作と関連資料アーカイブ_コレオグラフィー継承



2019_塩見允枝子特別授業「時間と空間に分け入る」〜フルクサス作品の演奏をとおして〜(撮影: 守屋友樹)

いものです。人の記憶には残るが記録が困難な作品です。これらの作品をアーカイブしていく手法の研究は必須の事だと考えています。ここで得られた様々な知見はメディアアートやパフォーマンスアートのアーカイブに生かされるだけでなく、作品と人の関係性(作者&作品&鑑賞者)をアーカイブする研究でもあります。また、多くの芸術作品は作品単体で成立しているように思われ、作品に必要な情報として「いつ」「どこで」「だれが」「大きさは」「素材は」などにとどまり、「どのようにして」「どうして」「どこから作り始めた」「どうして作る必要があったか」「どのように作品を考えたか」など作者の記憶に関する情報が残されていることはごく

稀です。作品制作を行う人たち(教員、学生)にとって、作品は人が創造するものであり、作者(演奏者、実演者)がその作品とどのように関わったかが重要です。そして、創作活動における創造とはこれまでの「作品」「コンテキスト」「もの」「技術」「概念」のアップデートです。そのために必要なものは、それぞれの領域における、これまでの作品やコンテキストだけでなく、他領域や芸術とは全く違った知見や体験との組み合わせ「技術」「概念」などが重要であり、それこそが「芸術資源」に成り得るという考え方です。これまでのアーカイブ研究は作品や作者、演奏家の歴史的資料研究としての面が強いものでした。芸資研は作品や演奏を単に歴史上に記録する為の研究ではなく、人との関わり(継承、創造)方を研究する事により創造の資源として生かす為のアーカイブのあり方を様々なプロジェクトを通して研究しています。その事は研究プロジェクトの多くが実技教員(制作者)をリーダーとしている点からも理解していただけたと思います。井上隆雄写真、富本憲吉、伝統音楽の記譜法なども学術的人材と制作者のどちらもが関わることで、歴史的資料の保存、活用の研究となっています。考え方は色々ありますが、このように人と作品の関係をアーカイブしている事が他機関のアーカイブと大きく違う点です。

「COMPOST」の表紙は版画専攻を卒業した桐月さんに制作して頂いた木版刷りの表紙です。板木に1巻ずつ新たな痕跡を刻み足し10号まで使用する予定です。木の板が掘られ、その痕跡が版木となり、紙にその痕跡を写し取ります。板木の痕跡はまさに前人が残した「身体性」の「記憶」で



2020_〈パシエ音響彫刻 特別企画展〉～1970年大阪万博から50年 ～ よみがえる響き ゆらめく身体 ～ オープニングコンサートの様子 / @KCUA



2021_Storen Letter Project 石版運び出し

す。同じ板木を使い続け、身体行為を重ねていくこの作業は単なる「記録」ではなく「記憶」の伝達です。

「COMPOST」の表紙はまさに創造的アーカイブの象徴と言えます。「ARC準備委員会」に参加し先輩教員に導いてもらっていた若手教員の私が現在は、芸術資源研究センターの所長として、センターを牽引する立場になっています。2012年のメールの時には見えていなかったものが、また一つ見えてきた気がします。芸術資源研究センターが単なる「デジタル・アーカイブセンター」に留まることなく「記憶機関」であり続けることを切に願います。

最後に、現在、芸資研では2023年度の移転が差し迫る中、現在の沓掛キャンパスの記録を写真で残す「**キャンパスアーカイブプロジェクト 沓掛2023**」にて2つ実施しています。



2021_「沓掛2023」撮影の様子(井上明彦)

一つ目は、本学に関係するみなさんが撮影した沓掛キャンパスの写真を提供していただき、それを「本学に関係する個々人の記憶の集合体」としてまとめ、沓掛時代の本学の記録をつくろうとするとりくみです。直接このサイトの投稿フォームから直接投稿されても結構ですし、紙焼き、ネガ、ポジなどメディアは問いませんので所有されている方がいらっしゃいましたら、芸資研までご連絡ください。

<https://arc-kcua.sakura.ne.jp/kutsukake/>

二つ目は、動画シリーズで毎回1名ゲストをお迎えして「沓掛キャンパスを写真で残すなら何を撮るか？」をテーマにキャンパス内を歩きながら記録写真を撮影し、Youtubeで動画配信しています。興味のある方はチャンネル登録よろしくお願いします。

<https://www.youtube.com/channel/UCbGvx51-Wtns8L8OjBW9Crg>



新任あいさつ (2021年9月)

美術学部デザイン科 環境デザイン専攻 准教授

島田 陽



私は1995年に環境デザインで学部を、97年に大学院を修了し、その後うっかりすぐに独立して建築家として活動しています。多くの建築家がそうであるように工芸系の大学でしっかりと建築について学んだ訳でも、どこかで修行積んだ訳でもない私が、曲がりなりにもそれなりに仕事を続けて来られているのは、大学時代に実際にものを作って学習した事が役立っているのかもしれない。住宅の仕事が多いのですが、本学に縁がある仕事といえば陶磁器の教授であられた秋山陽さんの住宅兼アトリエや、京都みなみ会館の移転改修工事、移転後の京芸キャンパスの設計チームの一員であるフジワラボラとの共同による神戸、垂水図書館の新築工事等があります。そん

な私は決して最初から建築家を目指していたわけではなく(そんな人は本学を目指さないでしょう)芸祭などで実物インスタレーションや模擬店舗を建てたりして遊んでいるうちにいつの間にか、建築の面白さに目覚めた次第です。誰かに導かれたわけではないのですが、自由に遊ばせてくれる本学の良さが私を今に導いているように思います。

まだ着任したばかりで右も左も判りませんが、自身の仕事を通じて環境デザインの領域の面白さを伝え、実物で身体的に考えること、学生の興味を尊重しながらも、良いタイミングで手助け出来るような、そのような教育を行っていければ幸いです。

退任あいさつ (2022年3月予定)

陶磁器研究室 特任講師

上田 順平



京都芸大にて、2019年から始まった陶磁器専攻特任講師の任期を振り返りますと、濃密な3年間でした。懐かしさと新鮮さ、失敗や挑戦で慌ただしく過ぎた初年度の終わり頃から、「場」や「間」の在り方や、様々な事が見直され始めました。

次年度には、教育環境、教育方法、コミュニケーションについて、大きな変革を迫られる事となりました。陶磁器の学生にとって大きな出来事の一つは、窯の焼成時の料理、食事、仮眠の為の「コントロール室」という部屋が、制作室に変わった事です。「同じ釜の飯」を食べ、昼夜を通して共に制作が出来なくなった事は、大きな変化でした。一方、遠隔授業を開始し、自宅での個別の学びが進む中、変わらなかった、変えられなかった事があります。それは、土を焼くという事や、「合い窯」と呼ばれる他者との共同焼成でした。

今年度には、一回生の始めには少し不安そうだった今

の二回生達が、陶磁器棟の中庭でマスクをしながらシャボン玉と元気に戯れる、その姿と目を見て少し安心しました。「同じ釜の飯」の重要性は、安上がりでおいしい手料理だけでなく、その時々空間や時間の共有にもあったのかも知れません。

杳掛の京都芸大にて、為すべきことと成すべきこと、どちらもやりきれたとは言え難く、やり始めたと言うに相応しい期間となってしまいましたが、私にとっては大変意義ある時間でした。

大学移転前と重なる世界の変革期に、学生達とのかけがえのない時間を支えていただきました全ての皆様に、心より感謝致します。移転後の新たな場と窯も、これまでと変わらず、素晴らしい出会いと濃密な時間と魅力的な作品を生み出すことと思います。

最後になりましたが、京都芸大の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

染織研究室 特任教授 (専門領域テキスタイル)

野田 涼美



日本初の公立美術学校として多くの優れたアーティストを輩出してきた本学の教育に関わることができ、大変有益な5年間でした。お礼申し上げます。

初めて担当した2回生の学生達が、今春修士過程を修了します。ただ側で見ていただけでも日々成長していく姿は頼もしく「飼いならされない自立した学生達」に、私は本学の教育の底力というものを感じました。

学生と制作について話をするときに、私は、こんな展開もこんな素材も考えられるし、こんな方法も可能で云々と、つつい話膨らみがちですが、学生は、適当にスルーする術を心得ていて、自身のテーマの本筋がぶれません。また制作と就職は割り切って考えることができる冷静さもあります。

よく学生達からテーマは何をきっかけに?素材や技法の決定はどのように?と聞かれますが、その度に「アートは、ごはん!」と答えてきました。私にとってアートは、生き方そのものです。旬の食べたいものをよく噛んで味わうことで心にも体にも栄養が行き渡る毎日の食事と同じだと思っています。

アーティストとして活躍することは大変素晴らしいことですが、卒業生達がこの生きづらい世の中で、アートの力を生かし「それぞれの佳日々」を送ってくれることを願うばかりです。

私が無事に任期を終えることができたのは、染織研究室の先生方はじめ皆様のおかげです。有難うございました。

象の会・いろあわせ

同窓生が同窓生を紹介し、リレーしていく近況報告のコーナーです。懐かしい人と出会う楽しみ、いつか自分に廻ってくるかも知れないドキドキ感のある連載です。

うえもり きょうこ
上森 響子

2017年(平29)版画専攻卒業
2019年(平31)絵画専攻(版画)修了

「一からのスタート」

大学時代、版画専攻でシルクスクリーンを用いて作品を作っていた。

修了後は縁あって、滋賀県長浜市にあるガラスの工房で、マンションやホテルといった施設を飾る工芸ガラスの制作に携わっている。



生まれてからずっと京都の街中で暮らしてきたが、今では山や畑に囲まれた自然豊かな田舎に通って生活していて、それが日常になった。

大学で版画の勉強をしていた私は、今までしたことなかったガラスのカットや電気窯を使ったガラスの焼成など、仕事をしながら工芸ガラス制作の知識と技術を身につけている最中だ。

また、作るだけでなく建物に設置するまでを仕事にしているため、早朝から片道何時間もかけて他府県に行き、作ったガラスを工事現場まで運ぶこともある。

学生の頃は、まさか自分が大きな商用車を運転し、工事現場でヘルメットを被って厳つい職人さんに混じって働くことになるとは思ってもいなかった。

ガラスを仕事にしていることといい、人生で何が起るかは本当にわからない。

まだ経験も足りなければ勉強することも山ほどあるが、仕事は待ってくれるはずも無く、ひーひー言いながらガラスに触れる日々だ。

大学を出て初めての仕事で初めての分野に飛び込んで、まさに一からのスタートを切って今に至るわけだが、悪戦苦闘しつつもやりがいのある毎日を過ごしている。

ふじ た いちろう
藤田 一郎

1970年(昭和45)日本画科卒業
劇団アトリエ座(在学中、専攻科中退まで)
他に、野球部、コーラス部

「現在地」

この10年ほどは『気』をテーマに描いて来ました。見えている物事を通して何か世界の摂理のようなものを捉えることが出来るのではないかと念ひからです。考えたり書いたりしていることが多く、実際に描いて作品に結びつくことが少ないのですが、僅かながらも現在地は観えているように思います。

65年から72年の激しい社会の動きの間で、表現世界の革新や前衛が社会に向けて発信力を備えていた時代に学生生活を送りました。特に同世代の先鋭的な動向に心揺すぶられながら、制作と演劇(アトリエ座)の8年間を経て、実社会でその構造や経済の巧な仕組みを肌で感じ、傷つきもしながら、常に表現とは何かについて考えさせられてきました。

専攻は日本画科だったのですが、実社会ではデザインや工芸についても多く学びました。飛騨高山で10年余り工芸学園の学校長として勤めた期間では多くの人々の助力を得て実り多い時間を過ごしましたが「実用の美」、翻って絵画の自立と自活についても改めて考えることにもなりました。いやそのように分化した考えにも疑問を持つようになりました。

最近、本来自由で独立しているべき「表現」行為が何かしら政治や経済に巻き込まれながらその力を劣化させて来たようにも思います。

群れることを嫌っていた私が、同級生と『丸池'69展』を22回も続けてきたのは、学生時代に培った表現への信頼を、今も担保出来ているからだと思います。

省みながらも劣化することなく「気」についてこれからも考え、実作品に結びつけようと思っています。



地気 '21-11



葉気 '21-11



幹気 '21-11



次号に紹介される方は、
ルー ウェイニー
陸 瑋妮さん

2019年(平31)絵画専攻(版画)修了



次号に紹介される方は、
ひろなか すずむ
廣中 進さん

1973年(昭和48)日本画科専攻卒業
1975年(昭和50)専攻科修了

学内消息（資料） （2021年1月～12月）

1月16日～ 1月17日	2021年度大学入学共通テスト
1月30日～ 3月21日	グスタフソン&ハーボヤ「Becoming——地球に生きるための提案」（京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA）
2月10日～ 2月14日	2020年度作品展（大学構内・京都市京セラ美術館）
2月10日～ 2月14日	2020年度博士有志展「INTERIM SHOW」（大学構内・京都市京セラ美術館）
2月25日～ 2月26日	2021年度美術学部入学試験
3月 3日～ 3月 4日	2021年度大学院美術研究科博士（後期）課程入学試験
3月 8日	2021年度美術学部・大学院美術研究科博士（後期）課程合格発表
3月23日	2020年度卒業式・学位授与式
3月27日～ 4月11日	京都市立芸術大学退任記念展 堀口豊太「日本という場所」（京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA）
3月31日	井上明彦教授、堀口豊太教授退任
4月 1日	安藤由佳子准教授、王木易講師、木村友紀准教授、人長果月特任准教授、安藤隆一郎講師着任
4月 8日	新2回生のための「2020年度入学式」
4月 9日	2021年度入学式
4月10日～ 5月 9日	芸術資料館収蔵品展 第1期「素描 線の跡を見つめて」 ＜当初は5月9日までの予定のところ、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から4月27日に会期繰り上げ終了。＞
4月17日～ 5月23日	『Suujin Visual Reader 崇仁絵読本』刊行記念展（京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA） ＜新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から4月25日～5月31日まで臨時休館。6月1日から再開し6月20日まで会期延長。＞
4月17日～ 6月16日、 6月12日～ 7月11日	京芸 transmit program 2021（京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA） ＜新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から4月25日～5月31日まで臨時休館。6月12日～7月11日まで展示作品の一部を再公開。＞
5月15日～ 6月20日	芸術資料館収蔵品展 第2期「新収蔵品展 2019-2021」
6月19日～ 8月15日	Slow Culture（京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA）
6月26日～ 8月 1日	芸術資料館収蔵品展 第3期「にんきもの 収蔵品貸出ランキング展」
7月 1日	創立記念日
8月 1日～ 8月31日	美術学部オープンキャンパス（WEB上）
9月 1日	島田陽准教授着任
9月 1日～ 9月19日	Lost in Translation（京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA）
9月14日～10月17日	芸術資料館収蔵品展 第4期「平成の日本画」
9月21日～11月10日	2022年度大学院美術研究科修士課程入学試験
9月22日～11月30日	駅ナカアートプロジェクト 2021 デザイン科学生の作品を展示（地下鉄二条城前駅）
10月 5日～10月31日	チェン・ティエンジュオ「牧羊人」（京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA）
10月23日～11月28日	芸術資料館収蔵品展 第5期「KYOTOのYUGA！油彩画コレクション展」
10月30日～11月1日	京都市立芸術大学芸大祭 2021（WEB上）
11月13日～12月 5日	栗田咲子、菱木明香、リース直美「Still, life — まだ、生きてます」（京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA）
11月13日～12月 5日	副産物産店の“芸術資源循環センター”展（京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA）
11月18日	2022年度大学院美術研究科修士課程合格発表
12月11日～12月26日	芸術資料館収蔵品活用展「第十門第四類」mamoru「おそらくこれは展示ではない（としたら、何だ?）」phase 0（京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA）
12月14日～12月20日	第32回留学生展（大学構内）

会員展覧会

（2021年1月～2022年1月） ■同窓会にお知らせいただいた展覧会情報です。

会員作品展		
2/23~28	石田歩展 一トロッコ島の断片—	ギャラリーヒルゲート 1F
2/23~28	石田真弓展 -MY COLLECTION-	ギャラリーヒルゲート 2F
3/1~6	長谷川 睦 展 わたなかに、島とける	ギャラリー白3
3/2~7	吉田真紀子展(銅版画・ドローイング)	ギャラリー恵風
3/3~13	谷内春子 -Möbius Loop-	+1 art
3/16~28	たじまゆきひこ展	ギャラリーヒルゲート 1F・2F
3/17~21	松本早苗 個展「旅役者」	尼崎市総合文化センター ギャラリーアルカイック
4/3~29	田島征彦が染め上げる！—絵本原画と型染の世界—展	守口市立図書館
4/7~13	高岡秀造の世界	大丸京都店 アートサロン ESPACE KYOTO



①



②



③



④

4/17~6/13	重岡良子 花鳥画展・時を紡ぐ・	大阪くらしの今昔館	⑥
5/1~12	上住雅恵展 Stay Aliveーエーゲ海より	ギャラリー島田	⑦
6/3~9	金井良輔 彫刻展 -彫刻とドロウイング-	京阪百貨店 守口店	⑧
6/26~7/25	木村嘉子展	さかい利晶の杜	⑨
7/14~20	井上よう子 ~静かな光、静寂の青~展	阪急うめだ本店 美術画廊	⑩
9/7~12	breathe again 大村美鈴 日本画展	古美術 瀬戸	⑪
10/26~31	高谷光雄 展	ギャラリー中井	⑫
11/2~21	井上俊一 展	ギャラリーなかむら	⑬
11/3~15 12/3~24	宮本 佳美 Inheritance of Life	新宿高島屋 美術画廊 imura art gallery	⑭
11/13~24	河合美和展	ギャラリー島田	⑮
11/15~20	小曾根環展 -flowering-	ギャラリー白	⑯
12/11~12	[あわい展]KOBÉ Misa Hoshi	ステージ・フェリシモ・ホール	⑰
12/11~22	井上よう子展 ~長い旅~	ギャラリー島田	⑱
12/13~19	星野敬子 水彩画展 時の記憶	画廊 楽	⑲
2022/1/15~20	金井良輔展 n.59 加飾の宴	TOR GALLERY	⑳



⑤

⑥



⑦

会員グループ展			
1/26~31	京都府私立中学高等学校美術工芸研究会 会員作品展2021 (吉田孝光 他)	ギャラリー中井	
2/21~27	共遊空間4人展 (並河富美代 他)	アートデアート・ビュー	
3/2~7	GOOD ART 45th Exhibition よあけのうた (吉田 孝光 他)	京都市京セラ美術館 本館2F	
3/2~7	いま、戦争の兆しに心いたむ美術家たちの作品展2021 (荒瀬隆造 他)	ギャラリーヒルゲート	
5/15~29	田邊朗×國松万琴 展 立体の輝き (國松万琴 他)	ギャラリー エム	⑲
6/8~13	宮村 長 追悼作品展 遺作と友人・教え子の作品 (宮村長 他)	ギャラリーヒルゲート	
6/12~29	特別企画展 エポック・ノック (小曾根環 他)	ギャラリー島田	⑳
6/15~20	16seasons[16人の現在] (石田歩 石田真弓 大志万伸子 衣川雅之 小西真理 佐川俊浩 田中直子 戸村寿子 鳥越翔海 福井研一 ふるはし美鳥 藤原二郎 堀内たかみ 真木智子 山本俊夫 堀川宏幸) 2021(第32回)花と土と人展	ギャラリーヒルゲート	㉑
6/29~7/4	(京都芸大美術教育研究会東海支部会員 東海地区在住同窓生 他)	電気文化会館 東ギャラリー	㉒
7/5~17	いきつく空間 -版画家に出会った喜び- (長谷川睦 他)	ギャラリー白 ギャラリー白3	
7/13~18	2021 京都銅版画協会 ミニアチュール展 (前川秀治 他)	ギャラリー ヒルゲート	㉓
7/17~9/4	花々展-百花繚乱- (小曾根環 他)	北川村「モネの庭」マルモッタン フローラルホール	㉔
8/23~29	いきつく空間 (長谷川睦 他)	Oギャラリー	㉕
11/16~21	GOOD ART 46d Exhibition 虹のつるぎ (吉田 孝光 他)	京都市美術館 別館2F	㉖
12/10~12 12/17~19	濡れた地蔵PROJECT "Photo session 2021" (町田藻映子 他)	kumagusuku SAS	
2022/1/25~30	京都府私立中・高美術工芸教育研究会 会員作品展2022 (京都芸大同窓生 他)	ギャラリー中井	



⑨



⑧



⑩



⑪



⑫



⑬



⑭



⑮



⑯



⑰



⑱



㉑



㉒



⑲



㉓



㉔



㉕



㉖



㉗

- 「芸大作品展」は、2022年2月9日(水)～13日(日)まで、左京区岡崎の京都市京セラ美術館と本学を会場に開催されます。学生諸氏の力作を見にお運びください。
- コロナ禍により2年間、総会と役員総会が開けませんでした。今年は何とか役員総会を開催したいと考えていますが、オミクロン株ウィルスの感染拡大が危惧されます。無事開催できるよう願うばかりです。
- 大学移転整備支援の「アートオークション」もコロナのため2年延期してきていますが、2023年1月6日からの実施に向け粛々と準備を進めてまいります。しかし、新型コロナの影響が長引くと再延期もあります。
- 大学では移転整備支援基金への募金・寄付をお願いする活動に力を入れ取り組んでいます。同窓生からの寄付も増えてきています。アートオークションへ出品できない方々からの支援策として是非ともこの基金への協力をお願いいたします。

- いよいよ来年、大学移転となります。同窓会事務局もC地区1棟2階の一角に決まりました。音楽同窓会の真声会と共同利用で約43平方の広さです。運営方法などこれから大学、真声会と協議してまいります。
- 同じC地区に入る講堂兼音楽ホールの名前が「堀場信吉記念ホール」に決定したと大学から連絡がありました。京都市立音楽短期大学初代学長を13年間勤められた堀場信吉先生の功績を称えてのもので、ネーミングクライツとは異なります。先生は、(株)堀場製作所創業者：堀場雅夫氏の父君です。
- 本年1月17日から、ゆうちょ銀行の払込取扱票料加入者負担(赤い用紙)においても通帳またはカードで払込みをされる場合は今まで通り払込手数料無料ですが、現金で窓口やATMで払込みをされる場合は払込人にも110円の手数料が必要になっています。ご負担をおかけしますがご了承願います。

次の場合は、事務局までご連絡ください

● 同窓会後援名義使用

同窓会費を納入されている会員が主宰する作品展など(個展、グループ展)で同窓会の後援を希望される場合。

● 展覧会の案内、情報の掲載

同窓会に送っていただいた展覧会の案内や情報はホームページや会報に掲載しています。ホームページへ掲載を希望される場合は展覧会内容、DMデータなどをメールでお送りください。

同窓会会費の納入をお願いします

会費の納入状況は同封の払込取扱票に印字されていますので、未納の方は納入くださいますようお願いいたします。本ページ上記に記載のゆうちょ銀行の口座宛てに振り込んでいただくこともできます。

● 満80歳以上の会費免除

過去10年間、同窓会会費を連続して納入いただいていた満80歳以上の会員で会費免除を希望される場合。

● 氏名、住所、電話、FAXなどの変更時

お忘れになると会報など送付物のお届け、連絡が出来なくなりますので、郵送、FAX、メール、または同窓会ホームページの住所変更フォームからお知らせください。

編集後記

- 「with corona」の生活が始まり早や3年目の年を迎えました。マスク生活も板に付き、逆にマスク無しでは忘れ物をした様な妙な気持ちになります。昨年に比べ、少しずつ以前の生活が復活してきている様子にほっとする一方で、新たな変異株による感染が再び急拡大し始め、まだまだ収束への道は遠いことを実感しています。同窓生の皆さんはどのような新年をお迎えだったでしょうか。
- 昨年、大学名称問題では「和解」という決着を見ましたが、これに対しては皆様色々なご意見をお持ちのことと思います。ただ、大学の価値は名称で決まるものではなく、当然、その内容であると考えます。

2023年の大学移転に伴い、活動の場を京都の中心地に置くことで、また、新しい未来が開けると確信しています。歴史ある本学の持てる力を最大限に発揮し、伝統的な校風をもとに充

実した教育のもと、学生の若いエネルギーに満ちた「京都芸大ブランド」を国内のみならず世界へ発信する、そのような大学になることを願っています。

「京都芸大ここにあり!」としっかりとその存在を示して欲しいと思います。

- さて、2022年はどのような一年となるのでしょうか。皆様にとってより佳い年となりますことを願ってやみません。コロナ禍、どうぞご自愛下さい。
- 本報74号発刊にあたり、ご投稿、ご協力いただきました方々に厚く御礼申し上げます。引き続き、皆様のご投稿、ご意見、ご要望をお寄せいただきますようお願い申し上げます。

(同窓会報編集委員長：阿部 緑)